

香川県における水稻の新準奨励品種「ヒノヒカリ」について

藤田 究・多田伸司・森芳史

石井清文*・井之川育篤**・吉田一史***

「ヒノヒカリ」は宮崎県総合農業試験場(国の指定試験地)において育成され、1989年に品種登録された。本県では1988年より奨励品種決定調査に供試し、その特性について調査した結果が良好であったので、1993年に水稻新準奨励品種として採用した。香川県における「ヒノヒカリ」の品種及び栽培特性は、以下のとおりであった。

1. 「ヒノヒカリ」は、「コガネマサリ」に比べて出穂・成熟期が3日程度遅い中生種である。稈長、穂長はやや短く、穂数は同程度の偏穂重型である。収量性及び外観品質はほぼ「コガネマサリ」並であった。耐倒伏性は「コガネマサリ」程度のやや強であり、いもち病抵抗性は、「コガネマサリ」よりやや弱く、黄金晴並と考えられた。

2. 「ヒノヒカリ」の食味は、「コガネマサリ」に比べて明らかに良く、特に外観と粘りの点で優れており、「コシヒカリ」並の極良食味であった。

3. 「ヒノヒカリ」の栽培適地は、県下全域の平坦地と考えられた。栽培に際しては、適正な施肥量として倒伏を回避し、また、いもち病にやや弱いため、適正防除を行うことに留意する必要があると考えられた。

キーワード:栽培特性,奨励品種,食味,水稻,ヒノヒカリ,品種特性